

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 兵庫県立神出学園 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (不登校支援のための県立のフリースクール)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 651 - 2304

兵庫県神戸市西区神出町小束野 30

E-mail kande@seishonen.or.jp

Website http://www.kande-gakuen.jp/

幼児児童生徒数 男子 38 名 女子 21 名 合計 59 名

幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～ 24 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当学園は、「不登校や引きこもりで悩む青少年が、ゆとりと潤いのある共同生活の中で、自然、人及び社会とのふれあいを通じて自己に対する理解を深め、自らの進路を見出すことができるよう支援することにより、こころ豊かな青少年の育成を図ること」を学園の設置目的として、体験活動を通して、自己有用感や自己肯定感を培い、自立を促すことを目的とする県立のフリースクールである。ESDを「さまざまな体験活動を通して、自己認識・自己理解することで、自己有用感や自己肯定感を高め、対人関係能力を伸ばし、自立していくこと、未来へつながっていくこと」と捉え、ESDの実践を通して「コミュニケーションを行う力、他者と協力する態度、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度」の育成を目標とした。

具体的には、学園の体験プログラム「エコ環境」を環境学習の中核とし、①ビオトープ内の水生生物の観察に係わる活動、②「みどりのカーテン」や給食の残飯を用いたエネルギー・資源に関わる活動、③草木染めをした羊毛の活用、④取組を他者に伝える活動（県主催ひょうご環境担い手サミットへの参加等）を行った。

① ビオトープ内の水生生物の観察に係わる活動

学園内の自然環境を活用し、環境や資源・エネルギーについて、「関心を持つ→知識を習得する（知る）→理解・認識する（考える）→行動する」という環境教育の段階的目標のうち、関心を持つ・習得するという点から、ビオトープ内の水中生物について観察・調べ学習を行った。そして、その調べたことをもとに、近隣の保育園児に説明し、共に観察を行った。保育園児に伝える過程で、どう伝えたらよいかなど試行錯誤する中で、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿が見られた。

② 「みどりのカーテン」や給食の残飯を用いたエネルギー・資源に関わる活動

自然がもたらす恵みやエネルギーの大切さを実感し、環境問題に関心を持てるように「みどりのカーテン」を実施した。効果やどのような植物が適するのかを調べ話し合い、朝顔（花を愛でる）・ゴーヤ（食を楽しむ）・網干メロン（地元野菜に着目する）・へちま（暮らしに役立てる）の4種類を選び、育てた。

また、「食品ロス」を考える視点で、寮生活の給食の残飯を堆肥に活用できるように、段ボールコンポストの製作を実施した。コンポストを製作するに当たっては、他者と協力・協働してものごとを進めようと試行錯誤しながら製作し、日々観察を行った。

③ 草木染めをした羊毛の活用

学園で飼育している羊を毛刈りし、その羊毛に学園内の植物を用いて草木染めを行い、小物製作を実施した。小物の活用を通して、自然の再利用を意識させるとともに、染料選定や作業を通して自分の役割を認識し、主体的に参加する態度が見られた。

④ 取組を他者に伝える活動（ひょうご環境担い手サミット参加）

他者に伝える活動として、兵庫県主催「ひょうご担い手サミット」に参加し、ポスター展示・発表を行った。また、NPO、学生などの環境保全活動に取り組む人々とともにグループディスカッションに参加した。これまで人前に立ったことのない学園生が、約300人の参加者の前で、活動紹介をスピーチし、ディスカッションに参加できた。学園生の自己肯定感を高め、本人・保護者が自らの成長を実感した。



①の写真（保育園児とともに水中生物の観察）



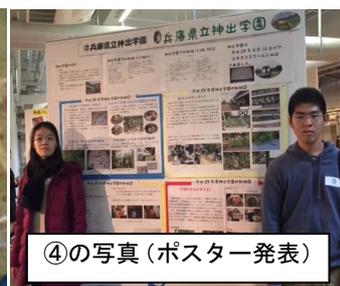
②の写真（みどりのカーテン）



②の写真（ダンボールコンポスト製作）



③の写真（染料採取と染液抽出の様子）



④の写真（ポスター発表）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項1-2, 2-1に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 プログラム「エコ環境」内で実施)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・ 生ごみを肥料にリサイクル! (段ボールコンポスト) 神戸市・ 草木で染める (社団法人 農山漁村文化協会)・ キッチンでできる草木染め (株式会社 ブティック社)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

不登校支援としてフリースクールの特色を生かし、学校の教育課程に相当する「体験プログラム」を設定し、その1つとして「エコ環境」を環境学習の中核としている。

学園内の豊かな自然環境を活用し、昨今の環境問題を踏まえ、不登校等により元気を失った学園生の特性に即して、年度初めに指導内容を定め、年度末には実施アンケートなどにより成果・課題を把握し、次年度への工夫・改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

当学園の教務課が中心に、各「体験プログラム」で実施した内容を情報把握してきた。

次年度は各「体験プログラム」における目標をSGDsとの関連付けを明確にし、会議で取組を全職員に周知し、年度末には推進状況を取りまとめ、成果と課題を担当者間で指導内容を共有し、全職員に報告する。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

学園生にプログラムアンケートを実施し、取組の成果を把握した。また、学園の研究紀要にユネスコスクールとしての活動の実践報告書を作成した。

成果としては、プログラムでの活動そのものがユネスコスクールとしての活動となっていることを意識付けすることができたこと、コミュニケーション能力が向上したことなどが挙げられる。

次年度は、学識経験者の意見や評価を取る予定である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学園行事や県が主催している「ひょうご環境サミット」でのポスター発表で発信した。その結果、学園がユネスコスクールに加盟したことを知らせることができた。また、「ひょうご担い手サミット」に参加したことで、環境に係る活動をしている他団体等の内容を知ることができ、今後のヒントとなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

自然環境の保全活動の取組として、民間団体(自然体験活動支援「シニア種まき隊」)や県関連施設(兵庫楽農生活センター)、環境学習に長けたフリーランスと連携し、環境学習や水生生物の観察などの指導助言をいただくなど、学園の特性を活用した環境学習の充実に努めた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

神戸市内のユネスコスクール加盟団体で構成する「連絡協議会」に参加し、情報交換を行った。
また、昨年12月に開催された第9回ユネスコスクール全国大会に参加し、現在のESDの推進状況や方向性や、他団体の取組を知ることができた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本学園の体験プログラム「エコ環境」を環境学習の柱に活動することで、自然環境や保全に学園生及び全職員が関心を持ち、各プログラム担当者が環境を意識したプログラム内容の展開をすることができた。

また、そのことから、他のプログラムとの系統的・横断的な取組についての手法を研究することができた。

(3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

今年度は、環境学習の柱である「エコ環境」プログラムを中心に実施してきた。

平成 30 年度は、「エコ環境」プログラムを中核とし、他のプログラムと連携し、SDGs のゴールを目指し学園全体として取り組んでいく。その際、ESD カレンダーを制作し、SDGs のゴールおよび本学園で目指す ESD の実践を地域の教育機関やその他関係施設等と連携していく。

特に、中核となる「エコ環境」では、環境学習や生物多様性の観点から、バタフライガーデンを整備し、ふれあい交流をする中で、コミュニケーションを行う力やつながりを尊重する態度を目指していく。